



OVERSEAS

Ethiopia —エチオピア—

海外事情【寄稿】



エチオピア国の生活と風習



松島秀夫 MATSUSHIMA Hideo
大日コンサルタント株式会社
海外事業部/部長代理

はじめに

エチオピア国の道路ネットワークの建設・維持管理・補修を主導する立場にあるエチオピア道路公社(Ethiopian Roads Authority: ERA)の橋梁維持管理に係わる人的・組織的能力向上を図るため、橋梁維持管理能力向上プロジェクト専門家として「監督・品質管理」

及び「橋梁補修」を指導するために派遣された。2010年12月から2011年3月までジンマ(Jima)、シャシメネ(Shashemene)、ゴンダール(Gondar)に滞在し、2011年12月から2012年3月までソド(Sodo)、コンボルチャ(Kombolcha)、デブレマルコス(Debre Markos)、ネケムテ(Nekemte)に滞在した。

そこで見て聞いて感じたエチオピア国の生活と風習、多くの世界遺産、いろいろな種類の動物、独自の文化を持つこの国の魅力を紹介したい。

エチオピア国

エチオピアは東アフリカに位置する人口8,300万人の連邦共和制国家である。東をソマリア、南をケニア、西を南スーダン、北西をスーダン、北をエリトリア、北東をジブチに囲まれた内陸国である。

グレゴリオ暦(西暦)とは異なるエチオピア独自の暦を使用しており、1月1日は西暦の9月11日にあたる。西暦からは約7年遅れである。だから会社に提出する領収書には、西暦を加筆してもらうようお願いする必要があった。時間も違う。エチオピア時間は我々の朝6時が0時だから、「エチオピア時間」か「ヨーロッパ時間」かを確認しないと約束の時間に会えないことになる。

首都アジスアベバ

名古屋・中部空港からタイ国バンコクまで6時間。バンコクから9



写真1 トウムカット(公現日)



写真2 ジンマのコーヒーポット

時間で、標高2,400mのエチオピア国の首都アジスアベバに到着する。空気が薄いので息苦しいという話を聞いていたが、そうは思わなかった。アフリカで赤道に近いのに大変涼しかった。朝、温度湿度計で測ると気温22℃、湿度20%だった。肌寒く感じたので、後日セーターを購入した。

ホテルの窓からの景色は広がった地平線のように見える広大な台地だった。市内はあちこちで高層ビルを建築中であり、成長期であることを感じたが、河川の水は白い泡を出して洗剤等の汚染が進行し、下水整備の未完了を示していた。

ライオンは今、エチオピア国にはいない。動物園で見ることができる。

滞在中の1月21日にトウムカット(公現日)という式典があった。エチオピア正教は歴史のある宗教であり、その式典は華麗だった。

食事

エチオピアの水道水は飲みそうだったが、市販されているペットボトルの水を飲んだ。アジスアベバのホテルの朝食は、いろいろな種

類のパン、ケーキ、ハム、チーズ、ヨーグルト、卵料理、果物があり、米が無いだけでおいしい西洋料理だと思った。市内には韓国料理、中華料理、日本料理のレストランがあるが、日本料理店はリアル日本料理ではなかった。聞くと、シェフはパキスタン人で、タイで修業したそうだ。

エチオピアは一時期、イタリアに占領されていたのでイタリア料理がおいしいと思い、近くのレストランでそれを食べた。しかしピザはおいしいのに、パスタはどこで食べても腰がないべたべたした食感でおいしくなかった。それは標高が高く沸点が低いことから、パスタの腰ができないという説明を受けた。ビールはSt. George Beer、ワインはGouder Red Wineがエチオピア産で、慣れてくるとおいしい。

主食はテフなどの穀粉を水で溶いて発酵させ、大きなクレープ状に焼いたインジェラであり、地方に行くときれしかなかった。臭いがあるので、慣れるのに時間がかかった。

ジンマ

ジンマはアジスアベバから南南

西340kmに位置する。2010年12月にジンマに向かう。広がる水平線は北海道より平らだと思った。途中建設中の橋の支保工は木材を組み合わせた構造だったが、道幅は山間部7m、平野部9m程度で舗装も良かったので走りやすいが、牛や羊が時々横断すると止まる必要があった。道路脇にトラックが横転し放置されていた。

エチオピア正教というキリスト教に似た宗教の教会は、十字の屋根飾りだった。月の屋根飾りのモスクも多くあった。エチオピア正教が人口の50%、イスラム教が30%と言われている。昼食をとったホテルの屋根にコンドルがいてびっくりした。

エチオピアはコーヒーの原産地と言われており、コーヒーが広く常飲されている。複数の人でコーヒーを楽しむ「ブンナ(コーヒー)・セレモニー」という習慣がある。ジンマはモカコーヒーとも言われるエチオピアコーヒー発祥の地といわれ、町のモニュメントにコーヒーポットがあった。同行したERA職員がコーヒーセレモニーの道具を購入していた。聞くと、この道具は質が良いから買ったそうだ。



図1 エチオピア国地図



写真3 ホテルに現れるサル



写真4 大きな鳥(アフリカハゲコウ)

三週間後、アジスアベバに戻る時、来る際に道路に横転していたトラックをレッカーで運ぶところだった。ゆったりとした事故車対応だった。

シャシメネ

シャシメネはアジスアベバから南南東250kmにあるコーヒーの生産地である。ジンマはコーヒーの発祥地だが、今ではこちらの方が主産地だそう。アワサやシャシメネに向かう途中の道は、ジンマに行く道より水平線が広がっていて馬が多かった。シャシメネのホテルはインターネットが使えなかった。部屋の窓のテラスにサルが木から飛び降りてきて私をにらんだ。バナナをあげると持って逃げ帰っ

た。その後、毎日サルが来てにらむが、無視することにした。

補修する橋の周りは深みになっていて、日ごろから子供たち等の水浴場所になっていた。若い女性の水浴中は、ERA職員の目線がそちらに行き、作業に支障が生じた。

アワサには大きな湖があり、サギ等の多くの種類の鳥がいた。ひととき目立つのが大きなアフリカハゲコウである。木の上、電柱の上、アワサ湖の公園入口にたくさんいた。アワサ市民から愛されているようである。

ゴンダール

2011年2月下旬からアジスアベバから700km北のゴンダールに向

かった。ここには世界遺産のゴンダール城がある。帰路、タナ湖付近にブルーナイルの滝があった。

アジスアベバに戻る途中の2011年3月11日に、エチオピア人から日本が大変な地震被害にあっていると言われ、昼食をとったレストラン(日本時間午後6時)のBBCテレビで津波を見た。東日本大震災のことはBBCテレビで毎日放送していたので、エチオピア人から「福島原発の影響は大丈夫か」と聞かれたときは、「自宅や会社がある名古屋方面は問題ない」と説明した。

ソド

2011年12月にソド市に行った。ソドはアジスアベバから約500km南にある。さらに南120kmのアルバミンチ市に行った。アルバミンチ市はエチオピア国南部国境付近のオモ族の集落へ向かう中継地点にあたり、観光客が多く、ホテルではインターネットを利用できた。オモ族は日本のテレビで時々紹介されているように、女性は下唇に皿を入れ、男性は狩猟生活をしているが、アルバミンチ市にはそのような人はいなかった。

ホテルで若い日本人観光客に会い、ここが観光地であることを実感した。アルバミンチのモニュメントにはライオンと部族の銅像があるので、昔はライオンがいたようである。

コンボルチャ

2012年1月初旬にコンボルチャ市に行った。コンボルチャはアジスアベバから約375km北にあり、車で6~7時間かかった。途中、大きな崖と陥没地帯があり、有名な大地溝帯(Great Rift Valley)の一部であった。大地溝帯は紅海からエチオピア、ケニア、タンザニア、マラウイ、モザンビークまでの総延長7,000km、幅35~60kmの正断層による陥没地帯で、数千年後にアフリカ大陸が引き裂かれ海ができるそうだ。

1月中旬にはコンボルチャ市から120km北のウェルディア市に移動した。ウェルディアはアジスアベバから約520km北にあり、車で約9~10時間かかる。ウェルディアはエチオピア国のラリベラという「失われたアーク(契約の箱)」が眠る岩窟教会群への中継地点にあたる。ラリベラは世界遺産の一つで、エチオピアの中で一番訪問客が多い観光地である。

しかしウェルディアからラリベラまで車で5時間かかるため、金持ちの観光客は飛行機を使い、レンタカーの観光客は別のコースからラリベラへ行く。ラリベラを朝出て、ウェルディアで昼食を食べ、コンボルチャ近くで一番大きい市であるデシエのホテルに泊まり、翌日アジスアベバに戻るのが一般的のようだ。デシエには立派なホテルがたくさんある。

ウェルディアに泊まる観光客は少なく、どのホテルも宿泊施設は



写真7 大地溝帯の一部



写真8 ラクダと筆者

お粗末だった。このホテルは停電や断水が多く、苦勞した。汲み置きの水でトイレを流し、体を洗う生活に慣れた。電気や水道は大事だと実感。インターネットカフェも通じる日と通じない日があった。このホテルで日本人高齢者ツアーに会ったときは驚いた。ウェルディアのあたりはラクダの産地であり、他の地域ではロバを使用した荷物運びをラクダが行っていた。エジプトの砂漠のラクダはここから輸出されるそうだ。

デブレマルコス

2012年1月下旬から2月上旬までアジスアベバから北西約300kmのデブレマルコス市に行った。途中、アバイ川(ブルーナイル川)を渡るアバイ橋を通った。この辺りはアフリカのグランドキャニオンと言われていて、台地の標高は約2,400m、ナイル川の河床高は1,200m程度で、地形の落差が大きいので景色は美しいが、あちこちで地すべりが発生していた。

ネケムテ

2012年2月中旬にアジスアベバから西約325kmのネケムテ市に行った。途中、バコからネケムテの77km間がドイツの資金援助で中国の施工会社による道路工事中で通れず、迂回路がガタガタの砂

利道で約3時間かかるというひどい状態で腰が痛くなった。その後、アジスアベバから435kmのギンビ市に移動した。ここではほぼ毎日断水し、インターネットが通じず、時々停電するという最悪のインフラ状況だった。ネケムテやギンビには荷役用の馬が多かった。

エチオピアの子供

地方に行くと水道施設の不備のため、女性と子供は薪集めと水汲みが大事な仕事である。集めた薪や汲んだ水は人が運ぶことは少なく、南のほうは馬とロバ、北のほうはラクダとロバを使っていた。水運びの道具は壺でなく、黄色のプラスチック容器が主流だった。朝、昼、夕方に子供たちが学校に行ったり、帰ったりする姿が見られた。午前と午後に分かれて授業を受けていた。各現場に約2週間ずついて観察していると、地方に行くほど水汲み、ヤギ・ヒツジ・牛の放牧と世話、小さな弟や妹の世話をし学校に行けない子供たちがいた。

カバやワニを記述するスペースがなかったが、とにかく、広大な台地で生活するエチオピア人のアジアとは全く違った文化、自然、生活、習慣はすごいと思った。



写真5 ゴンダール城



写真6 ブルーナイルの滝